

人間文化研究機構 北東アジア地域研究推進事業  
国立民族学博物館拠点 第2回国際公開セミナー

# 北東アジア農村社会の 持続可能性 —モンゴル牧畜社会を事例に—



1. 辛嶋博善（北東アジア地域研究・国立民族学博物館拠点）  
趣旨説明：「モンゴル牧畜社会の持続可能性」
2. A. ガンチメグ（ベルリン・フンボルト大学）  
「伝統的遊牧のライフスタイルを維持する  
—現代のモンゴルの牧畜民の直面する課題—」
3. 討論

使用言語：日本語、モンゴル語（逐語訳あり）

平成29年2月17日(金) 13:00-15:00  
国立民族学博物館 第6セミナー室

International Seminar on

# *Sustainability of Rural Communities in Northeast Asia from case studies on Mongolia*

## 1. Hiroyoshi Karashima

(Center for Northeast Asian study, at National Museum of Ethnology)

Introduction: Sustainability of Pastoral Societies in Mongolia

## 2. Ganchimeg Altangerel

(Humboldt University of Berlin)

Keeping the Traditional Nomadic Lifestyle: Challenges Herders Face in Contemporary Mongolia

## 3. Discussion

(in Japanese and Mongolian)



日本はもとより北東アジア全体で見ても、農村の人口は減少し、その維持が難しくなっている。その理由の一つに都市化により若者の農村離れが挙げられよう。もちろん、自然災害や人手不足といった困難な状況はモンゴルの牧畜社会にも出現している。しかしながら、少なくとも家畜の飼養頭数から見れば、モンゴルの牧畜社会は大方維持されている。

こうした農村の維持は牧畜の生産力によるところはもちろんのこと、畜産物の市場への流通や働き手の流動性、それを支える技術の導入や発展によって成り立っている。言い換えれば、それは農村と都市との間のヒトとモノの移動が鍵となっている。本セミナーでは、北東アジアにおける一つのモデルとしてモンゴルを題材として、農村の持続可能性を考えたい。



国立民族学博物館  
National Museum of Ethnology

●開館時間…………… 10:00～17:00(入館は16:30まで) ●休館日…………… 水曜日(水曜日が祝日の場合は、翌日が休館)

●観覧料…………… 一般420円/高校・大学生250円/小中学生110円  
※観覧料割引についてはホームページでご確認ください。

### 交通のご案内

- 大阪モノレール… 「万博記念公園駅」徒歩約15分  
\*自然文化園(有料区域)を通行せずに来館できます。  
同園内を無料で通行できます。  
「公園東口駅」徒歩約15分  
\*自然文化園(有料区域)を通行せずに来館できます。
- バス…………… 阪急茨木市駅・JR茨木駅から「万博記念公園駅(エキスポシティ前)」・「日本庭園前」下車徒歩約13分
- 乗用車…………… 万博記念公園「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分  
\*「日本庭園前ゲート」横にある当館専用通行口をお通りください。

[大阪・万博記念公園]  
〒565-8511  
大阪府吹田市千里万博公園10番1号  
北東アジア地域研究拠点  
northeastasia@idc.minpaku.ac.jp

